



令和5年7月26日

管内経済情勢報告

令和5年7月

財務省福岡財務支局


〔問い合わせ先〕

財務省 福岡財務支局 経済調査課

TEL 092-411-9038

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復しつつある」








項目	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	緩やかに回復しつつある	

（注）5年7月判断は、前回4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	回復しつつある	
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
設備投資	4年度は増加見込み	5年度は増加見込み	
企業収益	4年度は増益見込み	5年度は減益見込み	
住宅建設	前年を上回っている	前年を上回っている	
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、回復していくことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「回復しつつある」

百貨店販売は、インバウンドの回復やコロナ5類移行による外出需要の増加により、前年を上回っている。スーパー販売は、商品単価の上昇により、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、インバウンドの回復に加え、行楽需要が好調であることから、前年を上回っている。乗用車販売は、国内向けの生産増加により納期が改善しており、前年を上回っている。ドラッグストア販売は、食料品や医薬品、化粧品などが好調であり、前年を上回っている。家電販売は、買い替え需要が一巡したことなどから、前年を下回っている。ホームセンター販売は、主力商品である園芸用品などが伸び悩み、前年を下回っている。旅行取扱高は、コロナ5類移行や全国旅行支援の延長などにより、引き続き国内外への旅行が増加している。

(主なヒアリング結果)

- 高額品が好調を維持しているほか、外出機会が増え、衣料品や化粧品等の売上も増加。来店客数の増加に付随し、レストランの売上も伸びている。インバウンド客も増加しており、免税品の売上はコロナ前水準まで回復している。(百貨店、中堅企業)
- 客単価の上昇により売上は前年を上回って推移しているものの、菓子や酒など嗜好品のついで買いが減少している。7月以降も各種値上げは続く見込みであり、さらなる買い上げ点数や客数の減少に繋がらないか懸念している。(スーパー、中小企業)
- 5類移行を受けさらに人流が活発となっていることに加え、外国人観光客も増加しており、商業地や観光地を中心に売上は好調。(コンビニ、大企業)
- 昨年末より、海外向けの生産の一部を国内に振り替えているため、昨年よりも新車登録台数が増加しており、前年の売上を上回っている。(自動車、中小企業)
- 全国旅行支援の延長やコロナ5類移行の影響により旅行需要が増加している。これまでは近場で済ませる旅行が人気であったが、九州圏外への旅行や連泊が増えているほか、グループ旅行も増加している。(旅行代理店、中堅企業)
- 5類移行による人流の拡大、全国旅行支援の延長などにより、入場者数・宿泊者数ともに前年を上回っている。また、外国人の利用者はコロナ前の7割ほどまで回復している。(娯楽、大企業)
- コロナウイルスの影響もなくなり売上が戻ってきている。アジアを中心とした外国人観光客も入っており、夜の営業も好調。(飲食、中堅企業)

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

輸送機械の自動車は、供給制約の影響が緩和されたことにより、高水準での生産を維持している。鉄鋼は、海外需要などが伸び悩んでいることから横ばい圏内で推移している。電子部品・デバイス、海外向けなど一部に弱含みの動きがみられるものの、高水準で推移している。造船は、受注残高は増加傾向にあり、一定の操業を維持している。このように、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。

- 現状、半導体や部品などの供給不足もなく、例年なみの生産となっており、生産調整もない。当面は半導体不足等による減産はないと見込んでいる。(輸送機械、大企業)
- 受注、生産とも前四半期比でほぼ横ばい。製品別に見ても大きな変動はないが、中国向けや自動車生産の動向など、先行きに対する不透明感は依然として強い。(鉄鋼、大企業)
- 自動車メーカーの生産調整が緩和されたことにより、自動車向けの受注が回復傾向。中国市場の落ち込みは継続しているものの、全体で見れば受注残解消のためフル稼働に近い水準での生産が続いている。(情報通信機械器具、大企業)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

改善の動きが続いていた有効求人倍率は、このところ横ばい圏内で推移している。新規求人数は前年を上回っており、新規求職者数は前年を下回っている。このように、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

- より好条件の企業へ人が流れており、経験を有する技術職など求める人材を確保できていない。派遣や非正規雇用の従業員も賃金を上げないと集まらない。(電気機械、大企業)
- コロナ前と比べスタッフが40名ほど不足しているため、4月からチェックアウトを1時間早めて清掃に取り掛かっている。また、コロナの影響等により昨年度見送った定期昇給を春に実施した。人手不足や人件費の増加等に対応するため、サービス料を10%から15%に値上げた。(宿泊、中堅企業)
- 有効求人倍率は横ばいであるものの、宿泊・飲食サービス業、卸・小売業は、行楽やインバウンド需要の高まり等を受けて新規求人数が対前年比増加するなど、雇用情勢は改善している。今後、インバウンドの回復でのさらなる改善を期待しているが、物価高・人件費高騰による新規求人数減少に留意する必要がある。(公的機関)

■ **設備投資 「5年度は増加見込み」**（全産業）「法人企業景気予測調査」5年4－6月期

- 製造業では、「自動車・同附属品」等で減少見込みとなっているものの、「非鉄金属」、「電気機械器具」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「建設」等で減少見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「小売」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。

- 世界的な半導体需要の拡大に対応するため、工場敷地内に新たな施設を建設予定としており、増加する見込み。（非鉄金属、大企業）
- 都市開発案件などで大きな投資を予定しているため、増加見込み。（運輸、郵便、大企業）

■ **企業収益 「5年度は減益見込み」**（全産業）「法人企業景気予測調査」5年4－6月期

- 製造業では、「自動車・同附属品」等で増益見込みとなっているものの、「非鉄金属」、「電気機械器具」等で減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業では、「生活関連サービス」等で増益見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「その他の物品賃貸」等で減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。

■ **住宅建設 「前年を上回っている」**

- 新設住宅着工戸数でみると、持家、分譲住宅及び給与住宅が減少しているものの、貸家が増加していることから前年を上回っている。




■ **輸出 「前年を上回っている」**

- 輸出（円ベース）は、前年を上回っている。なお、輸入（円ベース）は、前年を上回っている。

（その他項目）

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査（5年4－6月期）の景況判断BSIでみると、5年4－6月期は、「上昇」超となっている。先行きについては、5年7－9月期は、引き続き「上昇」超の見通しとなっている。

3. 各県の総括判断

	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較	総括判断の要点
福岡県	持ち直している	緩やかに回復しつつある		個人消費は、回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
佐賀県	持ち直している	緩やかに回復しつつある		個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
長崎県	持ち直している	緩やかに回復しつつある		個人消費は、回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。